

環境思想・教育研究

2010年 第4号

【巻頭言】 文明論的課題としての環境問題	加茂直樹	1
◆ 特集論文Ⅰ 環境思想の課題と論点——世代間の対話を求めて		
<提言>		
生物的自然を考える	小原秀雄	3
環境思想の課題と展望——ドイツ環境哲学について	山内廣隆	6
環境思想についての私の立場	岩佐 茂	10
環境政治思想の課題と論点	丸山正次	13
エコフィロソフィーの模索と展望	島崎 隆	17
<論文>		
環境思想における「教育」の位置づけをめぐる考察——J. ロックの所有・共有地概念に着目して	降旗信一	22
「闘争」からの「共生」へ	関 陽子	29
〈共〉の思想における基底性に関する考察——環境思想の発展に向けて	布施 元	36
◆ 特集論文Ⅱ 〈農〉の思想と現代の諸問題		
21世紀の社会構想——高度自然社会への道	小貫雅男・伊藤恵子	43
〈農〉の思想と新たな文明への哲学的視座	尾関周二	56
〈農〉的共同態の現代的意義と、近代的共同（体）論の問題性	亀山純生	68
日本のむら論争と「自然村」——その論点と可能性	福田 恵	78
情報化社会における身体性と地域性の意義再考	吉田健彦	86
伝統農業と農生態系——リスク削減のための非集約型伝統農業の意味	吉田太郎	92
◆ 2010年度 環境哲学国際学術大会（於 韓国・ソウル）		
DMZ and the Philosophy of Ecological Peace	Myun-Hee Han	100
Ecological Democracy and Thoughts Proper to Ecological Community	Hae-Rim Yang	101
The Four Major Rivers Project	Mingull Jeung	102
Environmental Philosophy and Perspectives on De-Modern Civilization	Shuji Ozeki	103
◆ 一般研究論文		
現代日本の社会保障——何が問題か	加茂直樹	106
内モンゴル自治区の伝統的牧畜様式の再検討——「遊牧風土」を手がかりに	アラ坦沙	113
戦後日本の共同体論の変遷と「個人」概念の検討	増田敬祐	120
社会、エコロジー、共生（Ⅱ）	オブヒュルス鹿島ライノルト	127
The Third Concept of Liberty	John Clark	134
Law for an Ecological Civilization	Arran Gare	150
Environmental Degradation due largely to Civilization Driven by Insatiable “Technophilia”	Masanori Funakura	165
Development Ethics is a Person’s Survival Style	Ling-ling Guo	171
Government Intervention in Side Payment Schemes in Japan	Hiroshi Yoshida	178
Questioning Modern Civilization from the Perspective of “Agriculture”	Shuji Ozeki	185
◆ 研究ノート		
生命とひととの関係——生命の「顔」、ひとの「顔」	三宮 喬	191
「環境・情報リテラシー」の必要性について	宮坂和彦	198
◆ 研究調査報告		
Significant Roles Established and Implemented by the National Parks of Kenya in the 1960s and the 1970s for Wildlife Management and Education in Africa	中村千秋	204
ドイツにおける〈農〉の実践を巡る思想と環境教育	大倉 茂・布施 元・尾関周二	214
◆ 翻訳論文		
気候変動、そして「もう一つのフットプリント」	アリエル・サレー／尾関周二・東方沙由理訳	218